



倉持 瑛太 (くらもち えいた) 松枝小学校 3年生

作品名：「とべないホタル」を読んで

図 書：とべないホタル

ぼくは、「とべないホタル」という本をえらびました。その理由は、お父さんといっしょに図書館に行ったときお父さんが、「えいたは生き物が好きだからこの本がいいんじゃないの。」とすすめられたのと、この夏本物のホタルを見に行ったこともあり、きょうみをもったからです。

このお話は、一びきだけ羽がくしゃくしゃになってとぶことができないホタルとその仲間のホタルの話が中心となっています。羽がくしゃくしゃなホタルは、みんなと同じようにいっしょうけんめいとぼうとしました。けれどもいくらがんばってもとべませんでした。だけど、とべないホタルはあきらめないでいっしょうけんめい生きました。ある日、ホタルとりにきた男の子がとべないホタルをつかまえようとする、仲間のホタルがとべないホタルのみがわりになりつかまってしまうました。それを見たとべないホタルは、自分のために仲間がつかまってしまったこと、みんなが自分のことを思ってくれていたこと、自分がひとりぼっちではなかったことを知りました。そしてちぢれた羽のことよりも仲間の大切さを知ります。

ぼくは、この話を読んで仲間のホタルがとべないホタルをたすけるためにわざとつかまった場面が心にのこりました。なぜなら、男の子につかまってしまったら仲間のもとにもどれないかもしれないし、生きて帰れないかもしれない、それなのにとべないホタルのみがわりになることは、とてもゆう気がひつようなことだと思ったからです。

ぼくのお兄ちゃんが去年りょう足の手じゅつをしました。とても大へんな手じゅつで長い間ふつうに歩くことができませんでした。お兄ちゃんが学校にかよっている時に、クラスのお友だちがたすけてくれたことをお母さんから聞きました。ぼくもこまっている人がいたらたすけたいと思います。

この本を読んで、羽のちぢれたホタルはとてもかわいそうだったけれど、たくさんのやさしい仲間たちがいてよかったと思いました。自分がこまっていたり、だれかがこまっていたらみんなでたすけあうことが大切なことだとわかりました。